

いる小僧に、牡丹餅をごちそうしようと思つて声をかけたところ、小僧の姿はそこになかった。婆さんと二人探しあぐねて、いつも信仰している地藏様までたどりついた。

ところが、地藏様の足もとに田の泥がついているのを見つけ、二人は大いに驚き、地藏様のなせる業だとなお一層信心を深めたという。地藏様はいまでも左手を上になげ、右手は水平に前にして牡丹餅を持つている。それ以来、近所の人は鼻取地藏というようになり、信仰している。

(話者 内山正雄)

藤沼神社にまつわる伝説 《下江花》

●その一

藤沼神社は五穀豊穰、養蚕増殖、安産などに靈験あらたかなる神様といわれ、近郷近在はいうに及ばず、会津方面の三代、福良や、郡山、三穂田方面の人々が、旧四月四日と九月九日の講中には参詣者で大変にぎわった。

山中に屋台店も張られ、子どもたちも着飾つて参詣に行き、山中には時ならぬ人声のこだまが響きわたつたものだった。これほど信仰を集めたにもかかわらず、神様など信じないで、とくに藤沼様の悪口雑言をいつも吐きちらした某氏(天栄村惣五郎内辺の人といわれる)がいた。

ある時某氏が瀧村に用事があつて山道を通り、藤沼神社の前の道にさしかかった。見るともなく社殿の方を見ると、大蛇が江蓮の焰のような舌をペロペロと動かしながら、眼光するどく某氏を見据えてい